



ドクター・ハザマの

# バイタルサイン塾 14

## CDTM における薬剤師の参画目的

ファルメディコ株式会社  
 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座  
 医師・医学博士 狭間 研至

### 中核をなすのはフィジカルアセスメント バイタルサインはそれにつなぐ手段

バイタルサイン、フィジカルアセスメント、CDTM (Collaborative Drug Therapy Management: 共同薬物治療管理) といった流れのなかで、中核をなすのはフィジカルアセスメントだと思います。

目の前の患者さんは一体どういう状態になっているのか。この評価ができなければ、医療に主体的にかかわっていくことは難しいのではないのでしょうか？

医師に限らず、看護師、理学療法士、作業療法士も、鍼灸師も柔道整復師も、おおよそ医療に関する専門職として患者さんに接するには、患者さんの状態を頭に入れた上で、自らの専門知識に基づいて、専門的なサポートなり判断なりを行うこととなります。この評価(アセスメント)がなければ、その専門家をチーム医療のメンバーとして加える意味が大きく失われてしまいます。

患者さんの状態を把握する上で基本となるのが、バイタルサインです。この理解がなければ、他の医療従事者とチーム医療を推進していく上で、患者さんの状態を共有し議論することができなくなります。

もちろん、バイタルサインを自分自身で測れるようになる必要性は、絶対的なものではないでしょう。しかし、自分が必要と思ったその瞬間のバイタルサインを、自らの手で測定・採集することができることに越

したことはありません。

アセスメントを行うためには、まずは、他の医療従事者と同等か、それ以上のバイタルサインの知識と技能を身につけることが必要です。すなわちバイタルサインは、薬剤師としてのアセスメントをするための手段に過ぎない、ということです。

### 薬剤師らしいアセスメントができれば CDTM 参画への第一歩に

薬剤師らしいアセスメントができれば、是非、その内容をカンファレンスや回診・訪問診療同行の際に、医師に伝えてみてください。まずは、「私は～だと考えます」と伝えるだけでいいのです。そのアセスメントが医師と同様の方向であればそれでいいのです。

しかし、もし薬剤師によるアセスメントの内容が医師と異なった場合、しかも、アセスメントの背景にある知識や理論に医師が納得できた場合には、きっと薬剤師のアセスメントは治療方針に反映されていくと思います。これが、CDTM 参画への第一歩になると思います。

すなわち、フィジカルアセスメントは、薬剤師が CDTM に取り組んでいくためのツールにしか過ぎない、ということです。

では、その CDTM に薬剤師が参画する目的は何なのでしょう？

それはもちろん「医療安全の確保」、「医薬品の適正使用」という観点から、医療の質を維持・向上させることでしょう。ちょっと当たり前過ぎて心配、という方は、薬剤師法第一条を見ていただきたいと思います(表)。そこには、薬剤師は「調剤、医薬品の供給、その他薬事衛生をつかさどる」ことによって「国民の健康な生活を確保する」とあります。これこそが、CDTM の目的だと思います。

#### ■表 薬剤師法 第一条

(薬剤師の任務)

**第一条** 薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。